令和５年度　徳島市川内中学校　総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
1　学習指導 確かな学力の育成	①学習規律の確立を図る。 ②基礎的基本的な学習基盤の確立を図る。 ③課題解決につながる思考力、判断力、表現力の育成を目指した授業改善を図る。 ④主体的に学習する習慣、家庭学習の充実を図る。	評価指標 ①-1　生徒　「授業開始のチャイムが鳴った時には、授業準備をして着席している」 ①-2　生徒　「提出物を確実に出せている」 ②-1　生徒　「授業の内容が理解できている」 ②-2　教師　「学習の遅れがちな生徒に、適切な支援をしている」 ②-3　保護者　「生徒の学力向上に向けて熱心に取り組んでいる」 ③-1　教師　「授業のめあてを示し、振り返りの時間を確保している」 ③-2　生徒　「先生はよく分かる授業を実践してくれる」 ③-3　教師　「生徒の理解を深めたり、協働的な学びをしたりするために、１人１台タブレット端末を活用している」 ③-4　教師　「基礎・基本を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力等を育成するため授業改善に努めている」 ③-5　生徒　「自分の考えを他の人に説明したり、積極的に発表したりしている」 ③-6　教師　「学習意欲の高い生徒に、発展的な指導をしている」 ③-7　教師　「授業で話合い活動を取り入れ、対話力や合意形成の力等を育成している」 ④-1　生徒　「自分の課題を理解し、意欲的に取り組んでいる」 ④-2　生徒　「宿題以外の勉強をする習慣が身に付いている」 ④-3　保護者　「家庭学習の習慣が身に付いている」	評価指数の達成度 ①-1　A（92%） ①-2　A（87%） ②-1　B（84%） ②-2　C（64%） ②-3　B（82%） ③-1　A（89%） ③-2　A（91%） ③-3　C（54%） ③-4　A（100%） ③-5　B（80%） ③-6　B（82%） ③-7　C（64%） ④-1　B（80%） ④-2　C（62%） ④-3　C（59%）	総合評定 （評定） B （所見） 学習規律は概ね定着してきており、より主体的な取組となるような工夫が今後必要である。 学習の遅れがちな生徒への適切な支援策の工夫が必要である。分かる授業をさらに深化していくために、話合い活動を積極的に導入し、対話的な授業を展開する。また、オープンクラスウィークのさらなる展開やタブレットの効果的な活用方法をテーマにした校内研修・メンター研修により、授業力向上につなげる。 読書（読む力）に課題があるため、生徒会図書委員会を中心とした啓発活動や図書室運営を進める。 家庭学習の定着と充実を図るために、各教科や学年における課題等を精選し、生徒が主体的に自身の課題と向き合う時間を確保する。	・学校での学習はよくできているように思うが、家庭学習について、生徒・保護者ともに、達成度が他の項目より低く、自主的に学習に取り組む意識づくりが大切だと感じる。 ・学習の遅れが、学校生活にも影響するので、家庭との連絡を密にして、家庭学習の重要性を理解してもらうべきである。 ・コミュニケーション能力が低下しているなかで、思考力・判断力・表現力を育てる授業に力を入れてほしい。 ・生徒が自信をもてる、保護者が不安にならない取組を期待する。 ・学力の定着が難しい生徒の支援について、検討をお願いしたい。	・主体的な学習規律の確立に向けて、生徒会が中心となった授業ルールをつくる。 ・話合い活動を教科横断的に展開し、対話的な学習により、学びを深める。 ・家庭学習を充実させるために、基礎プリントや発展プリント等、個に応じた課題を工夫し、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・鳴潮の視写については、「書く」ことへの効果があがっているため継続する。 ・読書活動の充実に向けて、生徒会図書委員会が啓発活動をしたり、読書をテーマにした学校行事を導入したりする。（ビブリオバトル等） ・授業力向上に向けて、オープンクラスウィークや校内研修、メンター研修の改善を図る。特にタブレットを用いた授業展開については、全教師が研修等を通じて技能向上を図る。
		活動計画 ①学校全体・全教職員で授業に臨む基本的姿勢を確立する。 「チャイム着席」「授業の準備物」「正しい姿勢」「授業に集中」「授業のルール 10 か条」を掲示するなど可視化し徹底する。 ②生きて働く知識・技能を身に付ける。 ②-1 定期テストで基礎基本の問題で定着を確認する。 ②-2 読書への興味や読書習慣を身に付けるために、本の紹介を取り入れたり、冊数調べをしたりする。 ②-3 徳島新聞「鳴潮」の視写を週１回行い、読む力、書く力を身に付ける。 ②-4 各教科で教科書を読むなど、音読を取り入れ、聞く力、話す力を身に付ける。 ③「わかる授業」のために見通しのある工夫した授業改善を図る。 ③-1 「目標の明示」「問題解決のための学習活動」「振り返り」を徹底する。 ③-2 ＩＣＴ等、学習効果のある工夫と授業改善を図る。 ③-3 特別活動を核にした話合い活動を教科横断的に展開し、対話的な授業を進める。 ③-4 オープンクラスウィークで教師間の相互授業見学により、授業力向上に取り組む。 ④テスト前に「学習記録表」で目標設定し学習状況を記録する。	活動計画の実施状況 ①全校での共通理解と共通実践により、学習規律を徹底できた。 ②書く力、聞く力は身に付いてきているが、読書習慣に課題がある。 ③特別活動を通して、話合いによる合意形成に向けたプロセスを学べた。１人１台タブレットの活用について、教科によって差が見られた ④計画的なテスト勉強と振り返りを行い、主体的に取り組めるようになっている。			
2　道徳・人権教育 差別を見抜き許さない姿勢、不当な差別に立ち向かう行動力の育成	①言葉を大切にし、礼儀正しい態度を育成する。 ②自他の人権を尊重しようとする人権感覚を育成し、いじめや差別を許さない人権意識と自己肯定感を育む。	評価指数 ①-1　教師　「生徒の礼儀や言葉遣い、マナー等の指導を常に心がけている」 ①-2　教師　「生徒の人格を尊重し、言葉を大切にして生徒を指導したり、接したりしている」 ②-1　教師　「生徒の発達段階や生活背景を理解し、全教育活動において人権教育の推進に努めている」 ②-2　生徒　「いじめや暴力を受けている人を見たら助けようと心がけている」 ②-3　教師　「いじめや他の問題行動等の早期発見・早期対応に努めている」 ②-4　保護者　「いじめや暴力のない学校づくりに努めている」	評価指数の達成度 ①-1　A（96%） ①-2　A（100%） ②-1　A（100%） ②-2　B（80%） ②-3　A（96%） ②-4　B（80%）	総合評定 （評価） A （所見） 学んだ知識を実生活に活かすために、言葉を中心にした指導と取組をさらに進める。 各学年の発達段階や実態に応じた、計画的な学習を展開し、自他を大切する心を育む指導を継続する。 研究授業についても、外部講師を招き、質の高い授業づくりに向けた取組に努める。	・人権感覚の育成はかなりできていると思う。 ・人権教育を学校だけに任せるのではなく、関係機関との連携をさらに密にして、人としての尊厳、命の大切さを伝えなければいけない。 ・様々な体験を通じて、人権が他人事ではなく自分自身の中に絶えず隣り合わせであることを感じてほしい。 ・「差別はいかなる理由をもってしても、正当化できない社会悪であり、人間の尊厳を犯す犯罪である」、差別を許さない生徒を育成してもらいたい。	・学校生活におけるあらゆる場面を通して、人権意識向上に向けた取組を推進する。 ・教師の日常の見守りのなかで、言葉づかいを適切に指導し、仲間を大切にする言動ができるようにする。 ・本校が会場となる、令和６年度徳島市・名東郡人権教育研究大会に向けて、校内研修を充実させるとともに、学年ごとの授業検討会を開催し、学校全体として授業力向上を図る。
		活動計画 ①全教育活動を通して礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導する。 ②年間指導計画を見直し、人権に関する講演会や人権集会を充実する。 ②-1 研究授業を充実する。 ②-2 道徳教育を推進・充実する。 ②-3 人権教育を推進・充実する。	活動計画の実施状況 ①言葉を大切にした指導を継続できた。 ②各学年による人権集会や学期に１回の人権研究授業を実施し、人権意識の向上に努めることができた。			

3　健康・安全指導 心身の健やかな発育と自らの健康の保持増進に取り組む力の育成	①食育を推進し、基本的生活習慣が身に付いた生徒を育てる。 ②生徒会による「自転車運転免許制度」を活用し、交通マナーの向上に努める。 ③防災学習や避難訓練の充実を図り、地域と連携した学校防災の意識を高める。	評価指標 ①-1　生徒　「毎日、朝食を食べている」 ①-2　保護者　「毎日、朝食を食べている」 ①-3　生徒　「毎日、十分睡眠がとれている」 ①-4　保護者　「夜更かしをせず早寝早起きをしている」 ②-1　生徒　「交通ルールを守り、登下校している」 ③-1　教師　「安全教育や防災教育の意義を知り、生徒の安全のために取り組んでいる」 ③-2　生徒　「避難訓練や防災訓練に真剣に取り組んでいる」 活動計画 ①食生活に関するアンケートを実施し、給食の時間、学級活動等において朝食の大切さについて指導するとともに、食育ボード等で啓発する。 ②交通指導計画に基づき、交通安全教室や自転車運転免許制度を活用しながら、交通ルールの遵守の徹底と交通マナーの向上を図る。 ③授業中や休み時間、部活動中等、様々な場面を想定した、南海トラフ対応の避難訓練を実施するとともに、生徒会防災委員会による生徒の主体的な活動を行う。	評価指数の達成度 ①-1　A（90%） ①-2　A（90%） ①-3　B（76%） ①-4　C（54%） ②-1　A（97%） ③-1　A（100%） ③-2　A（96%） 活動計画の実施状況 ①食育アンケートを実施し、生徒の実態を把握し、啓発活動を継続した。 ②ＪＮＫを全校でさら推進することができた。 ③地域と連携した避難訓練を実施し、実際に近い動きを確認できた。	総合評定 （評価） A （所見） 自身の生活を見つめ、実践につなげることができた。今後も保護者と協力しながら、「早寝、早起き、朝ごはん」の定着を図り、規則正しい生活習慣の確立に向けた取組を推進する。 ＪＮＫ制度の点検・見直しをしながら、生徒が主体となったさらなる活動が継続する。 年間３回の避難訓練や防災学習の日、生徒会防災委員会の常時活動により、防災意識は向上してきている。	・十分できていると思うが、「夜更かしをせず早寝早起きをしている」の保護者の達成度が低いのが気になる。生徒と保護者の捉え方に差を感じる。 ・ＰＣ、ゲーム等による夜更かし、睡眠不足、視力の低下、表現力の低下は大きな課題である。	・保護者と協力しながら、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣のさらなる定着を図る。特に睡眠時間の確保については、生徒会保健委員会を中心に啓発活動を推進する。 ・交通事故ゼロに向けて、ＪＮＫを推進し、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組む。生徒会交通委員会を中心に、啓発活動を行う。 ・様々な場面を想定した避難訓練を実施したり、地域（川内町自主防災会等）と連携した防災学習をしたりすることで、防災意識を高め、地域の防災リーダーとなる資質と能力を養う。
4　生徒指導 生徒を認め、寄り添い、褒めて育てる生徒指導	①「ルールを守る」「物を大切にする」「他者を尊重する」等の基本的な生活習慣が身に付いた生徒を育てる。 ②常に自分の心と向き合い、自分で正しく判断できる生徒を育てる。 ③あいさつを励行する。	評価指標 ①-1　生徒　「学校へ来るのが楽しい」 ①-2　保護者　「学校へ行くことを楽しみにしている」 ①-3　生徒　「自分の机やロッカーの中の整理整頓を心がけている」 ①-4　保護者　「学校は規則遵守に適切な指導を継続している」 ②-1　生徒　「学級で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている」 ③-1　生徒　「授業の始めと終わりや校内外でのあいさつができている」 活動計画 ①学級生活や係活動・委員会活動を通して、当たり前のことが当たり前にできるよう指導する。 ②学期に１回生活アンケートを実施し、生徒理解に努めるとともに、生徒指導委員会を通して、生徒の把握や情報の共有化を図る。 ③登下校の際、教職員や生徒会によるあいさつ運動を実施する。授業の始めと終わりのあいさつを丁寧にする。	評価指数の達成度 ①-1　A（90%） ①-2　B（77%） ①-3　B（80%） ①-4　A（94%） ②-1　B（79%） ③-1　A（89%） 活動計画の実施状況 ①学級目標や行動目標を定め、定期的な振り返りを実施した。 ②学期に１回の生活アンケートを実施して生徒理解に努めた。 ③学校生活のあらゆる場面でのあいさつ指導を継続した。	総合評定 （評価） B （所見） 情報交換を密に行いながら、問題の未然防止や丁寧な初期対応ができた。また、家庭や関係機関との連携を強めることができたので、今後も継続する。 ポジティブな行動支援を継続しながら、自分自身を見つめ、正しい判断と行動ができる生徒を育成する。	・生徒が「学校へ来るのが楽しい」と感じるのは、生徒を大切にできているからだと思う。 ・ルールを守ることは、生活をする上でとても重要であることを、家庭との共通理解のもと進めるべきである。	・日常の生徒観察や年３回の生徒アンケートで、生徒理解に努め、生徒の思いに寄り添いながら、ポジティブな行動支援を継続する。 ・問題行動防止に向けて、保護者や関係機関との連携を強化する。 ・不登校生徒の支援として、学習室の組織的な運用やスクールカウンセラー等との連携を図りながら、社会的自立を促す。 ・生徒会が主体となったあいさつ運動を始める。
5　特別支援教育 生徒一人一人の理解に努める適切な支援の実践	①生徒一人一人のよさや能力を引き出し伸ばす教育を進める。 ②保護者との連携を密にし、共通理解のもと特別支援教育を進める。	評価指標 ①-1　生徒　「先生は相談したら誠実に対応してくれる」 ①-2　教師　「一人一人の生徒の状況を把握し、生徒理解に努めている」 ②-1　教師　「保護者からの連絡や相談に、迅速かつ適切に対応している」 ②-2　教師　「保護者と連携し、適切に情報を交換しながら生徒の成長を支援している」 ②-3　保護者　「学校は保護者からの連絡や相談、面談に誠実かつ適切に対応している」 活動計画 ①すべての生徒を対象に、引継シートや個別の支援計画を効果的に活用して、生徒一人一人の理解に努め、個に応じた支援を充実する。また、校内支援委員会を適宜開催して共通理解を図る。 ②保護者との教育相談や連絡を密にしながら、効果的な支援を行う。	評価指数の達成度 ①-1　A（91%） ①-2　A（100%） ②-1　A（96%） ②-2　A（100%） ②-3　A（91%） 活動計画の実施状況 ①学期ごとに校内支援委員会を実施し、共通理解を図った。適宜、巡回相談を実施して、専門機関との連携も図ることができた。 ②保護者との連携を密にしながら、生徒に寄り添う支援を継続できた。	総合評定 （評価） A （所見） 共通理解をもとに、組織的な支援を継続することができた。また、校外学習や交流学習等、特色ある教育を展開し、多くの体験活動からの学びを実現できた。 保護者との連携はもちろん、専門機関とも連携しながら、より効果的な支援方法を考え、実践につなげることができた。	・教育活動に工夫をして、熱心に取り組んでいると思う。 ・様々な活動を通して、学校生活が楽しいと実感できる様子が感じられる。 ・生徒に必要なものは何かという思い（考え）が、保護者と共通理解できていると思う。	・引き継ぎシートや個別の支援計画の効果的な活用、校内支援委員会により、生徒の特性や保護者の願いを全教師が共通理解し、個に応じたきめ細かな指導を徹底する。 ・保護者との連携を丁寧にするとともに、専門機関との連携を図りながら、効果的な支援を実践する。

6　キャリア教育 発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進 社会的自立に向けて必要な資質・能力の育成	①特別活動を通して、自己肯定感やキャリアプランニング能力を育てる。 ②「働くこと」の意義を理解し、将来の夢の実現のために計画的・継続的に努力する生徒を育てる。 ③１学年から計画的な進路指導を行い、自分に適する進路を選ぶことができる力を育成する。	評価指標 ①-1　生徒　「将来の夢があり、目標をもって生活している」 ①-2　生徒　「係等の仕事にまじめに取り組み、学級の役に立っている」 ②-1　生徒　「責任をもって掃除をしている」 ②-2　保護者　「家庭で手伝いをしている」 ③-1　生徒　「自分の進路について真剣に考えている」 ③-2　保護者　「進路や将来のことについて話をしている」 活動計画 ①学級活動で学級目標やルールを作成したり、学級の問題を話合いで解決したりする。ＳＤＧｓを視点とした委員会活動を主体的に行う。 ②各教科の学習にキャリア教育の視点を取り入れたり、講演会を実施したりして、将来の生き方について主体的に考える資質を養う。 ③３学年を見通したキャリア教育指導計画を見直し、キャリアパスポートを活用して、自己の成長を振り返るとともに、適性を知り、適切な進路選択ができる能力を育てる。	評価指数の達成度 ①-1　C（64%） ①-2　A（89%） ②-1　A（89%） ②-2　C（55%） ③-1　B（76%） ③-2　A（85%） 活動計画の実施状況 ①特別活動の話合い活動を通して自己肯定感を高めた。 ②講演会により、「働くこと」を身近に捉えることができた。 ③進路選択について、発達段階に応じた学習を展開し、自己の適性を知るとともに、適切な進路について考えることができた。	総合評定 （評価） B （所見） 自己肯定感を高め、自らの目標や夢をもって生活できるよう働きかけ、生徒会各部委員会の常時活動を活性化し、集団と関わりながら、学校や仲間のために活動する精神を養う。 「働くこと」を実感できる職場体験学習又は、それに代わる、有効な手立てとして、ゲストティーチャーによる授業等を検討する必要がある。	・中学生では難しいとは思うが、将来の夢・目標がもてるような取組ができたらよいと思う。 ・進んで何事にもチャレンジする気持ちがほしい。ゲストティーチャーによる体験授業には、わくわくする気持ちが生まれるのではないかと考える。	・１学年からの系統的なキャリア教育を整備し、自分の適性を知り適切な進路選択が行えるようにする。 ・ＳＤＧｓの視点を取り入れた、生徒会委員会の常時活動を活性化し、他者と関わりながら役割を果たし、課題に対応する力を育成する。 ・ゲストティーチャー、特に地域人材を活用して働くことについて学び、キャリアプランニング能力の向上を図る。
7　開かれた学校 家庭・地域との連携	①保護者・地域への情報提供をきめ細かに行う。 ②地域や関係機関と連携し、信頼関係を構築する。 ③コミュニティ・スクールの体制を整える。	評価指標 ①-1　保護者　「学校は情報提供が適切である（お便り、マチコミメール、ホームページなど）」 ①-2　生徒　「連絡プリント等を確実に家庭に届けている」 ②-1　保護者　「学校は家庭への連絡やＰＴＡ、地域との連携ができている」 活動計画 ①学年だより、個別メール、ホームページ等を充実させ、必要な情報を保護者、地域と共有する。 ②ＰＴＡや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。また、地域の人材を活用したり、地域の行事に参加したりする。 ③コミュニティ・スクールの体制を整備し、学校がめざす姿を地域と共有する。	評価指数の達成度 ①-1　B（84%） ①-2　B（84%） ②-1　A（87%） 活動計画の実施状況 ①生徒の活動をホームページに掲載し、情報共有に努めた。 ②ＰＴＡの学校行事への協力や生徒の地域行事への参加等、積極的な関わりができた。 ③学期ごとの学校運営協議会により、体制を整えることができた。	総合評定 （評価） B （所見） ＰＴＡ奉仕作業を実施し、ＰＴＡが主体となった行事ができた。町民運動会や町民文化祭にも、教員や生徒が積極的に参画できた。 マチコミメールのさらなる有効活用を検討する必要がある。	・ホームページに新着情報として、行事・活動が掲載されていて、活動の様子がよく分かる。 ・近年の被災地での中高生の活躍に目を向け、生徒が地域の防災リーダーとなるような、防災教育を進めてほしい。 ・町内の各組織との連携が大切である。	・ホームページをこまめに更新し、学校の様子を積極的に発信する。 ・ＰＴＡとの連携をより深め、奉仕作業や資源ごみ回収などを定期的に実施する。 ・町内行事への参加とともに、防災学習をはじめ、地域とのつながりを重視した教育活動を推進する。

評定の基準　Ａ：十分達成できた（100～85）　Ｂ：おおむね達成できた（84～70）　Ｃ：達成できなかった（69～）